

選定過程(各団体共通)		実行団体の選定にあたっては、外部審査員 5名による選定委員会を発足させ、「ガバナンス・コンプライアンス」「事業の妥当性」「実行可能性」「継続性」「先駆性(革新性)」「波及効果」「連携と対話」の選定基準に留意しながら慎重に審査、選定を行いました。 ※助成額は実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。						
団体名	所在地	事業名	対象地域	申請事業概要	選定理由(審査員コメント抜粋)	助成総額(円)	内訳(円)	
株式会社木の里工房木薫	岡山県 英田郡 西栗倉村	百年の森林構想のその先へ～2058年以降も持続可能な林業発展のための人材育成～	西栗倉村	<p>当社は「森から子どもの笑顔まで」を社是とし、間伐を中心とした森林整備、間伐材で子供向けの家具遊具を製作する木工加工、それを保育園や幼稚園に提案、設計をする営業、間伐材を土木資材や外構資材に活用する丸太加工、岡山市で認可を受けている木育含めホンモノに触れることに重きを置いた「もりの香保育園津高園」を運営する保育事業で成り立っています。子供用家具遊具や保育園経営など、なぜ子供向けの事業をしているのかとよく問われます。第一次産業の中で、農業と漁業は努力した人が収穫を迎えますが、林業は植林後50年以上のスパンで営まれる、次世代に繋いでいかないと収穫を迎えられない業です。次代を担う子どもたちに、ホンモノの木に触れてもらい、将来森林機能や環境も含めた森林林業に興味を持ってもらいたいという想いで事業をしています。</p> <p>森林整備部は、西栗倉村内を中心に間伐等の施業を行っています。作業員3名、林業機械6台で行っています。当社の強みとして、木工加工部と直結していることにより、市場では相手にされないような規格外の丸太を自社で使うことができたり、逆に規格外丸太を遊具や家具の設計に入れて、他社が真似できない木工品に仕上げることができます。規格外の曲がった丸太などは山林に放置するのが常套ですが、そのことにより、大雨の際に川まで滑落し、河道閉塞(天然ダム)の原因にもなります。当社としては、そのような災害も防ぎ、木材を有効活用できかつ他社が真似できないような木製品が出来る規格外の丸太も積極的に使っていきたくと考えています。また小径木も同様の扱いをされていますので、当社は積極的に使いたいと考えます。その為にも新たに雇用の必要があります。</p> <p>しかしコロナ禍を経て、顧客ニーズ、人流、求人とさまざまな「市場」が大きく変わりました。元々「3 K」と呼ばれ、人気のなかった林業職ですが一時は環境問題への関心の高まりや地方で暮らしたい人たちから少しだけ人気になりました。しかしコロナ禍以降はどの業界も人手不足で、林業を希望する人も激減しています。あと、規格外丸太を使うといっても、そもそも顧客のニーズを掴むこと、プロダクトデザインを考案するなど、商品化までは様々なプロセスがあります。当社の営業や木工加工部、森林整備部と連携すれば可能ですが、そのハブとなる人材が必要になります。</p> <p>本事業を活用し当社が目指したいのは以下の2点です。 ①森林整備部門を充実させ、村内の森林整備を加速させる。人と物の投資。また、森林整備で出る規格外丸太をアスレチック遊具などに有効活用をし木材の価値を高めるとともに林地残材を減らす。 ②消費者のニーズを改めて調査し、調査をもとにした商品を開発製作し、届ける。その為に必要なのは人材と、その人の教育だと考えています。また規格外丸太製品の試作や社内でのような材があるかを共有する新たな仕組み作りも必要になります。また顧客のニーズ把握、調査も必要です。それらを本事業を活用して実施したいと考えています。その事で西栗倉村の人口も増えますし、基幹産業である林業も発展すると信じています。 ③どんな人材を育てるか、その人材が地域に何をたらすか。 当社は森林整備から家具遊具の企画提案、設計、製作施工や認可保育園経営と森から子どもの笑顔までを一貫して事業に取り組んでいます。従来林業のような外での作業は天候に左右されやすく、安定しづらい業種です。当社であれば雨天時に工場で作業できます。そもそも既存の商流が林業、木工、保育事業とばらばらですが、当社は一貫して行っている為、既存の流通を超えたオールラウンダーを育成することができそうです。だからこそ、年間を通じ流通を超える高付加価値の仕事ができる人材を育てたいと思います。林業を基幹産業とする西栗倉村にとって、木を出すにとどまらず、出した木をどう使うかといったところまで企画提案出来る当社は稀有な存在です。オールラウンダーを育てることにより、西栗倉村にとっても厚みが増すと考えます。</p>	<p>「森から子どもの笑顔まで」という社是の通り、事業そのものがすでに川上から川下まで地域の中で顔が見える状態になっており、この事業をより広げて加速させていくことで、地方創生の「エンカール」な取り組みのグッドプラクティスとなる。子どもたちが地元の木を使った製品に慣れ親しんで育つことで、将来的に地元で働きたい、森の仕事をしたい、と思う未来の人材を育てることにもつながる息の長い事業になり得る。既存顧客に多数の保育園もあり、木製遊具を納めるだけでなく、その後定期的に確認&修理を担えるのも、地域内で一貫しているからこそである。循環型社会形成のためには、ユーザー(消費者)が製品を「修理する権利」も重要であり、今後日本が検討していく政策にも適う取り組みである。</p> <p>林業のサプライチェーンを中長期的な軸で検討するならば、「人材」の育成を中心据えるという方向性が重要であると考えられる。当該提案は、その方向性の骨子を踏まえており、評価できる。また、同社は、過去の事業実績がしっかりしている。</p>	29,504,000	直接事業費 24,844,000 管理的経費 4,060,000 評価関連経費 600,000	
株式会社 Foreque	熊本県 阿蘇郡 南小国町	森と人を繋げる-阿蘇小国杉の高付加価値化推進事業-	熊本県阿蘇郡南小国町、小国町	<p>①「林業循環型」サステナブル・ツーリズムの造成事業 ・山へ入ってもらい、植林や伐採の見学や体験を行う。林業関係者と直接話を聞く時間を持ち、森の生態系などを理解できる。その後、森林組合や製材所の見学し、川上の流通やそこで働く人との交流。その後、南小国町農林課が運営する FABLAB阿蘇南小国にて、3Dプリンターなどデジタル機器を活用した小国杉の DX型ものづくりワークショップや小国杉の精油を活用したアロマキャンドルづくりなどを実施する。昼食には、地元の無農薬野菜や山菜を活用した食の体験、夜は黒川温泉に宿泊し、観光から見える小国杉の意義のレクチャーを企画する。 ②地域材を活用した BtoC商品の製造と販売体制の構築 ・国内初となる小国杉の木系で作ったアパレル製品 木材からセルロースを抽出し、和紙に加工して燃やした木質由来の糸「木糸」で、制服やエプロン、手拭い、風呂敷などお土産として販売できる商品を展開する。 ・小国杉の樹皮で作るクラフトビールとオリジナルサイダー 筑後川の最上流に位置する町として、湧水が豊富である。地域資源である水源と杉を活用した飲料水を展開する。 ・製材所のボイラに溜まった杉の灰を活用した陶器 木材を乾燥させるために端材を日々工場では燃やしている。その過程で出る灰が大量であるため、地域資源と認識し陶器として展開する。 ・その他 小国杉の精油(アロマ)を活用したフレグランスライン、杉茶、杉饅頭など、昔から作られているものを見直す。 ③川上の都合を優先させた木空間プラットフォームの構築(新建築)(宿泊施設) ・地元の林家、木こり、製材所や建具屋、大工と連携し、「大径木」を活用した「小国の家」(2025年4月オープン予定)と宿泊施設(2026年4月オープン予定)を計画している。小国杉に愛着を持った参加者へ小物から家具、そして家の提案ができる体制を構築する。</p>	<p>実に革新的で、地域資源を生かしながら新しい付加価値へと広がる可能性を秘めている。エネルギーの活用、地域資源、そしてテクノロジー、デザインの可能性と是非成長してほしい事業であると云える。</p> <p>具体的なプロダクト提案が提示されており、実行可能なプロジェクトを構築しやすい。同社は地域との連携が深く、多くの共感企業とつながっている点でも、実行可能性も高い。</p>	36,500,000	直接事業費 31,100,000 管理的経費 4,500,000 評価関連経費 900,000	

選定過程(各団体共通)		実行団体の選定にあたっては、外部審査員 5名による選定委員会を発足させ、「ガバナンス・コンプライアンス」「事業の妥当性」「実行可能性」「継続性」「先駆性(革新性)」「波及効果」「連携と対話」の選定基準に留意しながら慎重に審査、選定を行いました。 ※助成額は実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。						
団体名	所在地	事業名	対象地域	申請事業概要	選定理由(審査員コメント抜粋)	助成総額(円)	内訳(円)	
美吉野木材株式会社	奈良県吉野郡天川村	林業サプライチェーン縦断型・多能工人材育成プロジェクト	奈良県天川村周辺	<p>概要 林業サプライチェーンを縦断できる多能工人材を育成する</p> <p>期間 2024年4月～2027年3月まで3年間の助成期間で3名を採用し、多能工人材に育て上げる</p> <p>経費 人材採用、人材育成(研修や視察等)、就業者環境の整備、コーポレートサイトリニューアル等の人材採用～育成までに関わるソフト&ハード面に利用</p> <p>課題 市場環境や就業人口の減少により 500年続く吉野林業や 1400年続く宮大工の技術を伝え繋ぐ人材が不足</p> <p>手法 素材生産/製材加工/建築設計と林業サプライチェーンを縦断できる多能工型人材を育成し、生産性を高めることで「ちゃんと稼げる」仕事を実現する</p> <p>目標 ・20-40代の若手を中心とした人材採用 3名 ・素材生産/製材加工/建築設計の 3分野を縦断できる多能工型人材の育成 ・人口 1250人の天川村で移住者を増加させる(採用者の定住) ビジョン ・歴史と伝統を伝え築いてきた吉野林業や宮大工の技術を絶やさない ・森と顔が見えるサプライチェーンを実現し、宮大工の技術が詰まった伝統建築を提供する ・天川村周辺地域の山が適切に管理し、2011年の紀伊半島大水害のような災害を起こさない山づくりを担う</p>	<p>技能・経験等の会社としての基盤が確立されており、投資効果を含めて安心した資金利用が見込められると思われる。リーガルの観点からも既存事業の延長線上にあるためリテカルなファクターが発生しづらいと思われる。</p> <p>人の育成は時間がかかるので、従来の行政の制度や助成金は見合わず、本交付金を充て、トビムシとの有機的連携をはかっていくことが適切であるように思う。</p>	26,684,000	<p>直接事業費 24,124,000 管理的経費 1,860,000 評価関連経費 700,000</p>	
株式会社コガ	神奈川県小田原市	中温木材乾燥設備導入を起点とする林業6次産業化による森林活用事業	神奈川県	<p>神奈川県西地域の地域産木材加工の拠点となるべく、南足柄市に一製材所の規模では所有が難しかった中温木材乾燥機を導入し、これまでニーズがあっても地域内で提供することができなかった人工乾燥材を供給し、地域産木材の競争力を強化し、需要拡大に繋げ、森林資源活用の活性化を促す。</p> <p>都市域を多く抱える神奈川県において、森林の多くは東久井地域に位置する。県では、「かながわ木づかい運動」を展開し、県産材を活用し、森を取り組みを進めているが、県西地域に製材生産機能はあるものの人工乾燥機能がないため、市場がある津久井や栗野市に出荷され、その周辺の事業者が加工することが多い。地域産材の利用促進には、需要側の品質ニーズに応え得る人工乾燥機能を備えた製材所が県西地域にないことがボトルネックになっている。</p> <p>これまでも地域産木材活用の取組がなされてきており、小田原市では小田原産木材調達基金による公共施設等の木質化や、小田原地区木材業協同組合の若手組織である小田原林青会が地域内の商業施設等の木質化や地域産材流通センターの整備をしてきたが、地元の製材所では木材乾燥機を有していないため、地元で製材までして津久井や栗野市の乾燥機を使用せざるを得ず、コスト増やスケジュールに制約があるなど、期待通りの成果が上がりなかった。</p> <p>本事業で導入する中温木材乾燥機は、木材の品質(悪影響を及ぼし、大量の化石燃料を使用する高温式)に比べ、木材本来の香りや色艶を残したまま乾燥できるという長所を持ち、割れの発生を抑制し、かつ熱効率を上げることで燃料費を低減できる。特に、中温乾燥材は内装に木材が使われなくなった原因である冷暖房設備の人工的な乾燥による狂いに耐えられるため、内装材に適した材と言える。人口減少により、住宅の新築件数は頭打ちになる反面、改装・改装のリフォーム需要の増加により、中温乾燥材の需要が高まることと期待される。</p> <p>県産の木の特性と気候風土を知っている当社が県産材の高品質ブランド化を図り、安定供給の体制を整えることで、公共建築、商業施設等の大口の需要にも対応できる一方、取り扱える樹種の範囲が広がり、特定の要望、例えば広葉樹の利用にも可能性が広がる。現在流通していない中温乾燥材の新商品を取り扱えるようになることで、当社の川上の林業、川下の建設業や関連産業の発展に寄与し、地域での林業 6次産業化の実現や雇用の促進につながり、地域社会の活性化に貢献することを目指す。</p>	<p>消費地を抱える神奈川県産材のサプライチェーンを強化する取組であり、波及効果がある</p> <p>本交付金に見合う実行性 & 実効性の高い事業であると考え。地元で中温乾燥機で木材を乾燥させると、バリューチェーン上にいる人たちがみんなが、それぞれの形で恩恵を受けることができる、まさにwin-winな取り組みである。またこの乾燥機を地元で使うことで、地域の脱炭素にも貢献できる点も評価したい。こうした課題というのは、ユーザー(消費者)はほとんど知ることもないし、口頭伝えられることもないので、ぜひユーザーの手元に届くまでのストーリーもあわせてみせていってほしい。</p>	29,257,971	<p>直接事業費 24,454,000 管理的経費 3,963,971 評価関連経費 840,000</p>	
株式会社柳沢林業	長野県松本市	熱化学還元処理炉(TCR)の導入による儲かる林業の実現と風土にあった地場産業創出	長野県松本市松本地域(長野県中宿エリア)、四賀地域(松本市四賀地区)	<p>今回の事業では、まず事業承継をする製材所の製材機を修繕を行い機械を稼働させ、熱化学還元処理炉(TCR)の導入を図る。これまで外注せざるを得なかった、製材乾燥を内製化、また、TCRによって得られる効果と合わせて、林業側が木材の価格形成や流通に対して関与できる存在となり、市場の一端でも主導権を持つことが狙いだ。そして、減少の一途をたどる地域の製材を担いつつ、他の木材業者と連携して地場産業化を図り、雇用の創出や木材資源の新たな活用を目指した起業、山林所有者への立木代還元につなげたい。TCRの最も優れた効果は木材素材そのものの品質が向上することにある。(TCR処理)によって得られる木材素材の品質向上については別添資料参照※1)ただ、これまでも野村隆哉研究所の炉によって何度かTCR処理を試してみたが、同一炉内で処理する丸太の種類、径、伐採条件(生育環境、伐採時期、伐採方法、伐採から処理までの時間等)を同一にできなかった。そのために処理スケジュールの調整が難しく、理論の再現性を100%にできていないとも考えられるため、今回の事業では、理論の再現性を限りなく100%に近づけるための丸太条件や処理スケジュールを見極める試験的運用を行いたい。そして必要なデータ解析と処理効果のエビデンスとなりうる実験について、研究施設に依頼する。データと合わせて、製材加工を進めながら実物の木材の変化を確認。そのサンプルを製材所や木材業界関係者にヒヤリングし、商品企画開発を進める。外構材、あるいは建築材としては、実際に自社の施工実績も積み上げ、3年後の事業完了時には、TCR処理材も含め商品と販路ができ、自社製材とTCR処理を中核とした事業構造のシフト(補助金制度に合わせた森林整備や伐採、また原木中心の販売から、山林の状況に合わせた伐採および少量高付加価値の木材販売(原木、製品)へ)が図れる状態を目指す。</p>	<p>TCRの実証を行うものであり、多様な樹種の価値化が可能となれば、地域植生に基づいた豊かな森づくりにつながる</p> <p>今回のエントリー団体の中で一番、短期・中期のアウトカムとそれまでの道のりが明確かつ具体的にあり、本交付金を受けたあとの段階的かつ最終的な姿も想像することができた。これまでの事業で見えてきた課題を克服し、6次産業化から地場産業化を目指す大きな一歩を踏み出すためにも、他の短期的な助成金や投資、融資ではなく、本交付金と親和性が高いことが理解できる。</p>	34,516,830	<p>直接事業費 31,507,330 管理的経費 2,029,500 評価関連経費 980,000</p>	